

豪州の4-6月期実質GDPは前期比+0.8%に回復

- 豪州の4-6月期の実質GDPは前期比+0.8%となり、天候不順などにより低成長となった1-3月期からの回復を示す。
- 4-6月期は民間消費や総固定資本形成、政府消費、純輸出などの内外需がバランス良く経済成長に寄与。
- 4-6月期GDPは豪州準備銀行(RBA)の経済見通しと概ね一致。RBAでは19年に向けた緩やかな景気拡大を予想。
- 今後の焦点は景気回復が賃金上昇に繋がるか。RBA総裁は9月5日の講演で賃金上昇に楽観的な見方を示す。

4-6月期の実質GDPは前期比+0.8%に回復

豪州の2017年4-6月期の実質GDPは前期比+0.8%となり、天候不順など一時的要因から低成長となった1-3月期(同+0.3%)からの回復を示しました(図1)。前年比では+1.8%と1-3月期と同水準の伸びとなりました。

実質GDP成長率の需要項目別の内訳を見ると、4-6月期は民間消費(前期比+0.4%寄与)や、総固定資本形成(同+0.4%寄与)、政府消費(同+0.2%寄与)、純輸出(同+0.3%寄与)などの内外需がバランス良く経済成長に寄与する結果となりました(図2)。

4-6月期GDPはRBAの経済見通しとも概ね一致

4-6月期の実質GDP成長率(前年比+1.8%)は、豪州準備銀行(RBA)が「四半期金融政策報告」(2017年8月分)で示した経済見通しとも概ね一致しています(RBA予想は前年比+1.75%)。RBAの経済見通しでは、実質GDP成長率は2017年末に前年比+2.0~3.0%へ、2018年末には同+2.75~3.75%へ、2019年末には同+3.0~4.0%へ緩やかに上昇すると予想されています(図3)。

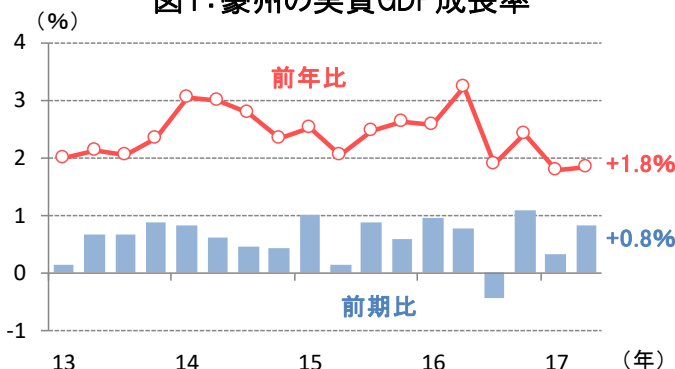
RBA総裁は今後の賃金上昇に楽観的な見方示す

RBAの今後の金融政策運営にとっての焦点のひとつに、景気回復が賃金上昇に繋がるかという問題があります。この点に関して、ロウRBA総裁は9月5日の講演の中で、今後の景気拡大と賃金上昇に楽観的な見方を示しました。

ロウRBA総裁の講演(9月5日)より抜粋

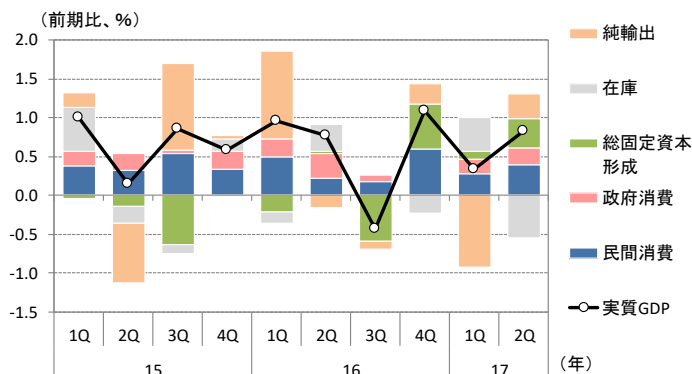
「景気が強含み、労働需要が高まれば、賃金上昇率も高まるだろう。労働市場の需要と供給の原理は依然として機能している。現時点でさえ、労働需要が高い一部業界では従来よりも速いペースでの賃金上昇の兆候がみられる。RBAでは、時間の経過と共にこうした現象がより幅広い業種に広がることを中心シナリオとして想定している。」

図1: 豪州の実質GDP成長率



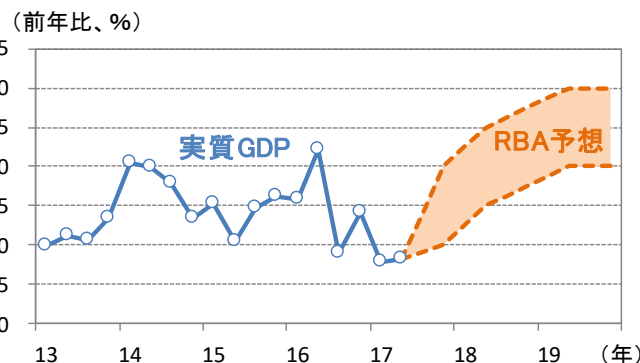
(出所)豪州政府統計局(ABS) (期間)2013年1Q~2017年2Q

図2: 豪州の実質GDP成長率の寄与度分解



(出所)ABS (期間)2015年1Q~2017年2Q

図3: 豪州準備銀行(RBA)の豪州経済見通し



(期間)2013年1Q~2017年2Q(予想は2017年4Q~2019年4Q)

(出所)ABS、豪州準備銀行(RBA)

(注)RBA予想は「四半期金融政策報告(2017年8月)」より。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。